



迷言

赤山鑛山株式會社
社長 宮崎茂薫

醒めれば味氣なさを通り越した悪夢ではあつたが、敗戦前の鑛業人には一般國民と同様に夢があつた。その夢のなかで大東亞の廣大な鑛物資源地域に挑みかかつていたのである。

ところが徹底的に敗残した日本經濟の中でわが鑛業界が生死の境をさまよひながら、夢はもう澤山たと骨身に沁みて訓えられたのはほんの昨日のように思つてゐるうちに、銅價は上昇する、亜鉛景氣は出る、硫黄は不足を告げるといふことでもまた、いたずら好きな歴史の輪廻に操られあつたかのような活氣を呈して來た。業界の動きも勢い精力的ならざるを得ないわけである。ほんとに計らずも受動的ではあるが形を變えた夢が再び現われたかに思われる。

もと／＼貧弱な鑛源を第二次大戰で吐き出してしまつた跡には世界的規模からすれば小鑛山の列にしか入らない、しかも條件の悪い山々が残されているだけである。これを提げて何とかして生きてゆかねばならないのが業界の現實である。一般の製造加工工業であれば創造への努力如何によつて、より高價値の二次三次製品を創出し販賣することにより巡環的に必要原料を入手操業して生きるといふことが考えられるけれども、人工の餘地なく自然附與的な鑛源相手の鑛業にはそれが許されない。足尾で稼ぎ、別子を掘り、細倉を相手というように比較的好條件の鑛山の次には、嫌でも悪條件のいわゆる中小鑛山を選ばざるを得ないのである。そうかといつて下手に他國の領土の鑛山に色目でも使うものならば飛んだお叱りを蒙むのは必定である。たゞ我々に可能なことは次第に貧困になる對象物と取組んでこれを合理的に經營するためには如何に獨自の技術的、管理的な努力に骨肉を削るかといふことのみである。全く夢どころの騒ぎではないのである。

翻つて思うに現在と同じく將來も日本國民經濟機構のうちで鑛業の占める領域はかなり大なるものがあると考えられる。だとすればたとえ對象物はどうあろうとも、やがて來るべき時にそのあるべき性格と規模に於てそれを正確なタツチで母胎經濟機構の中の落著くべき領域に落著かしめなければならぬ。いまの世界的ブームはそのための機縁を提供してくれる絶好のチャンスであり、しかも最後の幸運ではないだろうか。業界の勞資はいうまでもなく一般政經人も目前の事態に眩惑されることなく、將來あるべき日本國民經濟にふさわしいわが鑛業界の育成を眞劍に勇敢に取上ぐべき秋ではないだろうか。

日本鑛業協會誌(第四卷第六號)

六月號 目次

(卷頭言)

☆迷言……………宮崎茂薫…一

☆我國硫化鑛

問題について……………福田 薫…二

☆南米鑛業の現況

速水、井本、高柳、山崎…一〇

☆鑛山の評價と

Depletion Allowance (三) ……奥村誠次郎…三二

☆發破孔はどう穿つたら一番よいか

C.H. ホツバ
諷 訪 浩 譯 ……三六

☆重要なタンングステン

……………三三

☆鑛山連盟排球第一回大會

……………三三

☆鑛山野球大會開催要領

……………三九

【鑛山の科學管理】

▽科學管理の急務……………四四

▽協會だより……………三五

▽ニュース……………三六

▽資料……………四〇